

2022年6月末日

需要家 各位

神奈川生コンクリート協同組合



## 暑中期における生コンクリートの納入について

近年、地球温暖化の影響により猛暑日が多くなっており、製造時のコンクリート温度が35℃近くになることが多く見られ、さらにミキサー車での運搬及び待機を考慮しますと荷卸し時のコンクリート温度が35℃を超える可能性が生じています。

暑中期のコンクリートに関しては、日本建築学会「暑中コンクリートの施工指針・同解説」が2019年に改定され、コンクリートの性能が低下しないよう適切な対策を講じることにより受入時のコンクリート温度の上限値を38℃にできると記載されています。

また、JIS登録認証機関では、コンクリート温度の上限値を38℃に社内体制を整備することでJIS規格適合品として認めています。

弊協組組合員は、社内規格を改定し、JIS登録認証機関の承認を得ており、荷卸し時のコンクリート温度が38℃以下であればJIS規格上問題がない体制を整えています。

しかし、納入現場で受入基準を「35℃以下」とされている場合、工場はJIS規格適合品として品質に問題のない生コンクリートを出荷しても、現場の基準によって受け入れを拒否されることとなります。

このような状況では現場にご迷惑をおかけする事態の発生が考えられることから、工場は生コンクリートの納入をご辞退させていただくことがあることをご承知おきください。

また、コンクリート温度を35℃以下に指定され、現場受入検査においてコンクリート温度のみ不適合が発生した場合には、お客様都合による戻りコンとして取り扱い、商品代および取消料をご負担いただくことをご了承いただきたくお願い致します。

夏期の外気温が高くなる傾向にあることから前述の状況が発生する可能性が高い為、是非ともご理解、ご協力をお願い致します。

以上